石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ● http://www.isenshu-u.ac.jp

代表電話番号 0225(22)7711
入試専用FAX 0225(22)7809

インカレに出場決定

硬式テニス部・和田咲良さん

▶ インカレに向け、練習に励む和田さん

女子初、部では13年ぶり

東北学生テニス選手権大会の女子シングルスで和田咲良（さくら）さん（経営1・宮城県泉館山高）が5位と健闘し、8月27日から9月5日まで東京・有明の森公園で行われる全日本学生テニス選手権大会（以下、インカレ）への出場が決まった。

5歳からテニスを始め、高校3年時には宮城県高校総合体育大会の女子シングルスと同ダブルスで優勝、インターハイに出場した逸材。「インカレ初出場が決まってから専大女子テニス部の練習に3日間、参加させてもらいましたがレベルが高く、とても刺激になりました。まずは、1回戦突破を目標に頑張ります」と抱負を語った。

硬式テニス部のインカレ出場は13年ぶりで、女子では初となる。得意のフォアハンドが冴えるか楽しみだ。

全国大学対抗簿記大会
「石鳳会計研究会」が大健闘
個人戦2級で3人優勝　団体戦2級は2位

簿記のインカレといわれる「2010年春季全国大学対抗簿記大会」（資格の大原・大原大学院大学主催、イタリア大使館、日本公認会計士協会後援）が6月5日、全国の大原グループ各校を会場として開催された。全国127大学、5263人の学生がエントリー。本学のサークル「石鳳会計研究会」は今回も健闘し、個人戦2級で3人が優勝したほか、団体戦2級の部では2位となった。

▲ 個人戦で優勝した３人（左から工藤さん、佐々木さん、庄司さん）

代表の工藤友貴さん（経営3・宮城県塩釜高）は「秋季大会では1級に挑戦し、優勝目指して頑張ります」と意気込みを語った。

結果は次の通り（敬称略）。

〈個人戦2級の部〉
優勝＝工藤、庄司晴菜（経営2・山形県酒田商業高）、佐々木美咲（経営2・宮城県鹿島台商業高）

〈団体戦2級の部〉
2位＝石鳳会計研究会C

▲ 干潟の生物を学ぶ学生たち

干潟の生物を観察
生物生産工学科1年次生60人が臨海実習

理工学部生物生産工学科の1年次生60人が6月12日、石巻市の万石浦大浜地区で臨海実習を行った。

今回は「干潟の生物の観察」（方形枠を用いた干潟に生息する生物の定量的な観察）をテーマに、干潟に生息する生物の種類とその分布を調べた。

参加した木村勝彦さんは「50㌢四方の中にどのくらい生物がいるかを調べました。岸から沖の方へ行くにしたがってさまざまな生物を見ることができ、とても充実した実習となりました」と満足した様子だった。

今泉美彩紀さんは「調査を進めるにつれて、殻に穴を開けられて食べられてしまったアサリなどの貝が多く見られ、（巻き貝の一種である）サキグロタマツメタガイが及ぼす被害の大きさを実感しました。干潟に入るという貴重な経験ができ、楽しかったです」と話した。

4年次生190人が参加
熱心に企業ブース回る
8月5日にも開催

企業と大学の相談会
「キャリアガイダンス」開く

42社を招き「第4回キャリアガイダンス（企業と大学の相談会）」が6月4日、石巻グランドホテルで開かれ、4年次生約190人が参加した。

会場では、学生が志望する企業のブースを回り、自己ピーアールに努めたり、熱心に面談したりする姿が見られた。

本学では同様のキャリアガイダンスを8月5日にも開催する予定で、厳しい就職戦線の中、奮闘する4年次生たちのため、あらゆる機会を通じて支援に努めていく。

6月17日には、キャンパス内で3年次生対象の「第10回進路ガイダンス」を開催した。当日は「マナー講座②―好印象を与えるリクルートファッション」と銘打って、紳士服メーカーなどから講師を招き、リクルートスーツの選び方や着こなし方などを学んだ。また女子学生は、採用担当者に好印象を与えるメイクの仕方についてアドバイスを受けた。

▲ メモを取りながら真剣な表情で採用担当者の話を聞く４年次生たち

▶ 実演を見て、ネクタイの結び方を学ぶ

▶ パソコンにデータを取り込む方法を教える工藤教授（左）

サテライトキャンパスで大学開放センター特別授業
市民が参加
「デジタル写真集」づくり

6月12日、石巻市役所の市民活動ルームで、サテライトキャンパス企画・大学開放センター特別授業「家族でつくろう思い出のデジタル写真集（第1回）」を実施した。

理工学部の工藤すばる教授が講師を務め、市民4組が受講。家族の思い出が詰まった写真をパソコン専用ソフトで編集し、アニメーションに加工したり、BGMなどの効果音を入れたりしてデジタル写真集を作った。

この企画は共創研究センターの主催で石巻市が共催。5月には「こども車博士養成塾」を開いた。第2回を7月10日に実施、第3回を9月11日に行う予定。

研究発表や公開シンポなど開催
日本海水学会第61年会

6月3、4の両日、日本海水学会の第61年会が本学で開かれ、研究発表や市民公開シンポジウムなどが行われた。

ポスター発表では、「ヒラメ無眼側黒化の機構解明と黒化抑制に関する研究」を発表した高瀬清美さん（理工学研究科生命環境科学専攻1）が若手研究者優秀ポスター賞を受賞した。「共同研究者の方々のおかげで賞を頂くことができた。これを励みに今後も研究にまい進したい」と話した。

研究発表では本学からは理工学部の角田出教授のグループが「微細気泡による水産生食品の安全性確保に関する研究」と題して発表。「気泡のサイズを制御することで、マガキのノロウイルス・細菌汚染を除去でき、安全性が高まる」と報告した。市民公開シンポジウムでは「東北沿岸域の環境と資源利用」と題し、東北沿岸域の塩づくりの歴史のほか、古代の製塩法を再現して手作りした「藻塩」でまちおこしに取り組む塩釜市の事例が紹介された。

▶ 若手研究者優秀ポスター賞を受賞した高瀬さん

高崎教授が特許取得
「ナノ水」1㌧を30分で生産

理工学部の高崎みつる教授が長野県の農機具・ポンプメーカー㈱麻場と共同で「ナノ水」を短時間で大量に作り出す装置を開発し、特許を取得した。この装置は従来の発生器と異なり、ガスを使わずにすべての液体を対象にナノ化が可能。現在、食品加工や調理、排水処理に使用され、今後医療などへの応用も期待されており、企業化の準備が進められている。

ナノは10億分の1を意味する。ナノ水は水分子がきれいに整列している特性があり、浸透性が極めて高くなる、といった特徴を持つ。また、水道水に比べ、30―50倍に酸素濃度を高めることができる。開発した「長波振動同調型ナノ水生成機」は、小さいエネルギーで大量の水に分子振動を与え、生成することが可能なシステムで、約30分で約1㌧以上のナノ水を作ることができる。

熱心にグループ面談、個別面談
育友会総会

育友会の定期総会が6月20日、本学で開かれ、54組68人が参加した。

総会では、前年度の事業報告と決算報告および今年度の事業計画と予算案について、いずれも原案通り承認された。

続いて行われた石巻地方懇談会では、坂田隆学長、山崎省一学生部長、安田隆就職指導部長が、大学の現況、教育内容、学生生活、就職活動の状況、本学の支援体制などについて説明。引き続き行われたグループ面談と個別面談では、ご父母らが教員と熱心に話し合い、不安や疑問を解消した。

図書館主催バスツアー
「サン・ファン館」など訪問

図書館主催の「石巻の歴史・文化・芸術を知るバスツアー」が6月3日に行われ、市内にある宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）と石巻文化センターを訪れた。新入生を中心に30人が参加。学生たちは、サンファンバウティスタ号などを見学しながら、教員や友人との親交を深めることができ、満足した様子だった。